

修士試験対策体験談

亜細亜友之会外語学院
大学院進学 B クラス：黄子安

皆さんこんにちは、私は大学院進学 B クラスの黄子安です。2023 年 6 月に大学を卒業しました。卒業後、日本語の勉強と修士試験の準備のために亜細亜友之会外語学院に来ました。同年 11 月に神戸大学大学院国際学研究科に合格し、2024 年 2 月に国立九州大学大学院人文科学研究科に合格しました。

中国では、大学 3 年生の頃から空いた時間を利用して日本語を学び、将来の大学院進学に向けて準備を始めました。2022 年二回 JLPT (N2) 試験を申込みする予定でしたが、コロナの影響で中止になりました。私自身も、中国の教育機関でどれだけ日本語を勉強しても、言語環境がなければ結局のところ話せないと思い、すぐに日本留学を決意しました。卒業後すぐに日本語学校に入学し、同年 7 月に日本で N1 試験を受けました。不合格で悔しい思いをしましたが、半年間亜細亜友之会外語学院での勉強を経て 30 点近く向上し、同年 12 月に N1 に合格しました。

研究計画書を作成するにあたって、私の専攻は言語学であり、専攻を変えるつもりはありませんでした。しかし、日本語能力がまだ不十分であるため、まず第二言語習得、つまり中国人がどのように日本語を勉強するのかをテーマとする大まかな方向性を決めました。そして、修士課程では心理言語学についてもっと学びたいと思い、研究方法として心理学実験を利用することにしました。私はこれらのことにあまり詳しくなく、周りに指導できる先生が少なかったため、長い間悩んでいました。

迷っていたとき、学部で関連する内容を勉強したことを思い出し、大学の先生と共有していたコースウェアや文献を掘り出し、少しずつ手がかりを掴みました。その後、大学の先生に相談し、先生からの提案、推奨文献、研究者に基づいての論文や参考文献を広げていくことで多くの有益な情報が見つかりました。

最後は、英語文献の実験を参考にして大まかな枠組みを作りました。枠組みが確立され

てからは、オンラインや近くの図書館で関連書籍を積極的に検索し、レビューなどを参考にしました。同時に、日本のさまざまな大学のホームページを閲覧して、自分に合う教授を探しました。その教授が出版した書籍や論文をある程度理解するまで勉強しました。すべてを読むことは不可能ですが、少なくとも大まかに理解することはできました。6、7人の教授に連絡を取り、先生方の返答から伝わる情報で、受験先を神戸大学と九州大学に決めました。

この分野（言語学＋心理学）は日本では比較的人気がないと言えるので、二回の試験ともライバルが少なかったのは幸運でした。この状況で、最大の敵は自分自身です。志望教授の期待に応えるためには、自分の強みを活かし、弱点を避けて最善を尽くすことしかありませんでした。例えば、神戸大学の面接では、まだ日本語が不十分で、提出できる日本語の成績もありませんでした。面接の時、先生にそのことを聞かれましたが、英語の成績は比較的良かったので、日本語が下手という理由で先生からの拒否はありませんでした。九州大学の教授に連絡したところ、当初は研究生としてスタートすることを勧められました。面談後、研究計画書も教授に見せたところ、教授から修士試験準備をしてもいいと許可をもらいました。受からなかったら、研究生のことを考えようと言われました。私は教授の期待に応えて、最終的には合格点を獲得しました。

試験準備に関しては、まず、面接の際に辛抱強く指導して下さった亜細亜友之会外語学院の先生方に感謝いたします。実際、外国で試験を受けるときの最大の恐怖は未知のことです。亜細亜友之会外語学院の岩崎先生は、面接のマナーから丁寧に指導して下さいました。面接の基本的な流れを教えていただき、答えに詰まった私に適切なアドバイスをしてくれました。宮原先生は、予期せぬ視点からよく私にアプローチして頂き、私は研究テーマについてより包括的かつ深い理解を得ることができました。筆記試験の準備に関しては、私はあまり経験を提供できません。なぜなら、私が経験した2つの試験は典型的ではないからです。神戸大学の筆記試験は、日本語と専門科目の両方でした。日本語は読解力を重視していました。専門科目では、英語の文献が与えられ、要約して記事の内容に基づいて小論文を書くことが求められました（日本語または英語のどちらでも可）。一方、九

州大学では、3 人の教授がそれぞれの分野（音韻学、言語脳科学、文法学）から 1 つの問題を出し、最後に 5 つの用語の説明がありました。幸運なことに、九州大学の過去問は非常に豊富でした。インターネットで 10 回以上の本物の過去問が見つかり、過去の問題からパターンをまとめることができました。出題範囲はわかりませんが、方向性を掴みました。

振り返ってみると、私の受験は比較的順調でした。激しい競争もなく、チャンスがある時は比較的十分な準備をしていました。すべては、かつての自分と比較することです。ここまで読んで下さった皆さんの学びの道が順調であり、希望の大学に早く合格できることを願っています！

